

名寄高新聞

ソフトテニス特集
北海道名寄高等学校新聞局
2020.8.3
発行責任者 丸山夏花

市長・教育長杯ソフトテニ大会:名寄市営コート

男子 山本・村瀬ペアが2位

国体選手相手に善戦

第25回市長・教育長杯争奪ソフトテニス大会が7月18日に名寄市営麻生コートで開催された。当日はとて天気がよく、テニス日和となった。一般男子予選リーグには名寄高校・下川商業・土別翔雲・名寄産業の4校から9ペア、一般から5ペア、下川商業と一般が組んで1ペアが出場した。

名高からは、山本烈王主将(2C)・村瀬翔汰君(2A)ペア、和田快音君(2B)・畑田裕也君(2B)ペア、八島英雅君(1C)・大河内福ノ介君(2A)ペア、片岡淳君(1C)・渋谷健太君(1B)ペア、佐々木優羽君(1C)は名寄産業の宮村君とペアを組み、合計で5ペアが出場した。

男子ダブルスの予選は3ペアずつの5つのリーグ戦



相手の位置を確認しストロークを放つ山本烈王主将



鋭い飛び出しでボレーを鮮やかに決める村瀬翔汰君

に分かれて行われ、それぞれ上位2チームが決勝トーナメントへ進出することになる。

山本・村瀬ペアは予選Aブロックで1勝1敗となり、ブロック2位で決勝トーナメントに進出。和田・畑田ペアは予選Dブロックで、八島・大河内ペアは予選Bブロックで、片岡・渋谷ペアは予選Cブロックで、宮村・佐々木ペアは予選Aブロックで、全ペアとも0勝2敗となり、決勝トーナメント進出はならなかった。

決勝トーナメント1回戦で山本・村瀬ペアは下川商業の土田・米沢ペアと対戦。

第1ゲームは序盤、山本君のサービスエースなどで2-0とリード。相手ボレーで2-1となるが、その後、相手ミスと村瀬君のスマッシュで4-1とし、このゲームを奪う。

第2ゲームも相手のミスな

どで2-1とリードすると、村瀬君が積極的に前に出てボレーを決め3-1。最後は山本君がクロスに強打を放ち、4-1で第2ゲームも奪った。

リズムを失った下商ペアは第3ゲームでストロークアウトを繰り返して、名高ペアが4-2でこのゲームも連取。

第4ゲームは相手にサービスエースなどを許して、0-4で取られ、ゲームカウント3-1。

第5ゲームはストローク戦で優位に立つと相手のロブが次々とアウトとなり、4-2で第5ゲームを取り、ゲームカウント3-1で準決勝進出を決めた。

準決勝は一般の藤原・西牟田ペアと対戦。

第1ゲームは村瀬君のボレーが惜しくもアウトとなり先取点を奪われるが、山本君がサ



コースを狙いストロークを打つ和田快音君



ランニングボレーを狙い駆けだす畑田裕也君

サービスエースを決めて1-1。その後、村瀬君のランニングボレーなどで得点するが、ミスも出て、3-4とゲームポイントを奪われる。しかし、ここから丁寧にストロークを繋いで相手のミスを誘って3連続ポイント。6-4でこのゲームを先取する。

第2ゲームは序盤、ストロークとボレーがネットにかかり0-2とリードされる。名高ペアはここから村瀬君のレシーブエースと相手のダブルフォルトで連続得点して2-2の同点に持ち込むが、相手もサービスエースとストロークエースで得点し、2-4で第2ゲームを奪われる。

第3ゲームは熱戦となった。序盤はストロークアウトとストロークネットで3連続失点。しかし、相手もミスを重ねて3-3のデュースとなる。レシーブエースで相手に先にゲームポイントを握られたが、村瀬君がサービスエース、ハイボレー、バックハンドボレーを連続して決め逆転。6-4で第3ゲームを取る。

第4ゲームは相手ペアにミスが続き4-1で奪い、ゲームカウントを3-1とする。

第5ゲームはレシーブミスで先制されるが、相手のストロークミスで2-1と逆転。しかしその後、相手前衛にボレーを2本決められるなどして、2-4でこのゲームを落とす。

第6ゲームは前衛サイドを抜かれて先制を許すが、村瀬君のコースを突く短いレシーブなどで得点し3-1と逆転。しかし、ミスが続いて3-3のデュースとなる。相手ボレーがネットにかかりマッチポイントを握ると、最後は村瀬君がボレーを打ち、返されたボールをスマッシュで決めて

5-3。このゲームを奪い、ゲームカウント4-2で勝利し、決勝戦へ駒を進めた。

決勝戦は地区ナンバーワンの実力を持ち国



確実にサーブレシーブを打ち返す大河内福ノ介君

体選手の吉田・川端ペアとの対戦。予選ブロックでも対戦したが、1-4で敗れている。

第1ゲームは相手のミスもあり、山本・村瀬ペアが健闘して奪う。

第2ゲームは、相手にボレーやロブを左右に散らされミスが出るなどして、0-3とリードされる。その後、山本君がボレーを狙い前に出た前衛の逆をつくストロークとサービスエースで得点し、2-3と追い上げる。しかし、最後は相手前衛にスマッシュを決められ、2-4でこのゲームを落とす。

第3ゲームでは、山本君が丁寧にコーナーヘストロークを打ち、チャンスボールを村瀬君がスマッシュするなどして2-0とリードするが、その後、レシーブミスやボレーミス、相手のサービスエースなどで連続失点し、2-4で第3ゲームも連取される。

第4ゲームはいきなり相手に鮮やかなボレ

ーを決められると、リズムを崩してミスが続き、0-4で第4ゲームを奪われ、ゲームカウント1-3と後がなくなる。

第5ゲームは相手のダブルフォルトで1点を先取する。その後、山本君のロブがアウト、相手前衛のスマッシュがアウトとなり、2-1。ここでボールを追いコート内で激しく動いていた村瀬君が足を痛め、ゲームが中断。村瀬君は痛みをこらえて、ゲームを再開したが、相手のサイドを抜く強いストローク、サービスエース、ボレーが決まり、2-4でこのゲームも奪われる。その結果、ゲームカウント1-4で敗れた。

惜しくも準優勝に終わったが、足を痛めても一生懸命にボールを追った村瀬君や、強敵相手に最後まで全力でストロークを打ち続けた山本君に、保護者や観客は大きな拍手を送っていた。

国体選手と戦い良い経験 山本 烈王 主将

とても久しぶりの大会でペアも変わっていたので、各ペアの中で目標を決めて試合に臨んだ。そして、練習してきたことをプレーに活かすことを意識した。

当日は一般の国体に出場していたペアとの対戦があり、とても良い経験になった。他校もペアチェンジをし、新チームとして

強くなっていたため、名高も負けていられないと思った。印象に残っている場面は、藤原・西牟田ペア(一般)との対戦。途中まで負けていたが、巻き返して点を奪い、気持ちも上がり、勝つことができた。

今後の練習では、プレーをする中で見つかった課題などに取り組んでいきたい。

最後に勝ちきる練習する 吉原 怜次 監督

生徒たちにとって久々の大会だったため、まずは一球一球を大切にプレーを意識するように指導した。

大会では良いプレーがたくさん見られた。しかし、ラストゲームまで競って勝ちきれなかったが多かったので、そこで勝ちきる力を今後は日々の練習で身につけていき

いと思った。準優勝した山本・村瀬ペアのプレーでは、どんな相手でも果敢に挑む姿勢が印象に残った。

そして、当日は非常に気温が高く、日差しも強い真夏日だったが、多くの保護者が駆けつけてくださり、応援をしてくださったので、とても有り難いと感じた。